

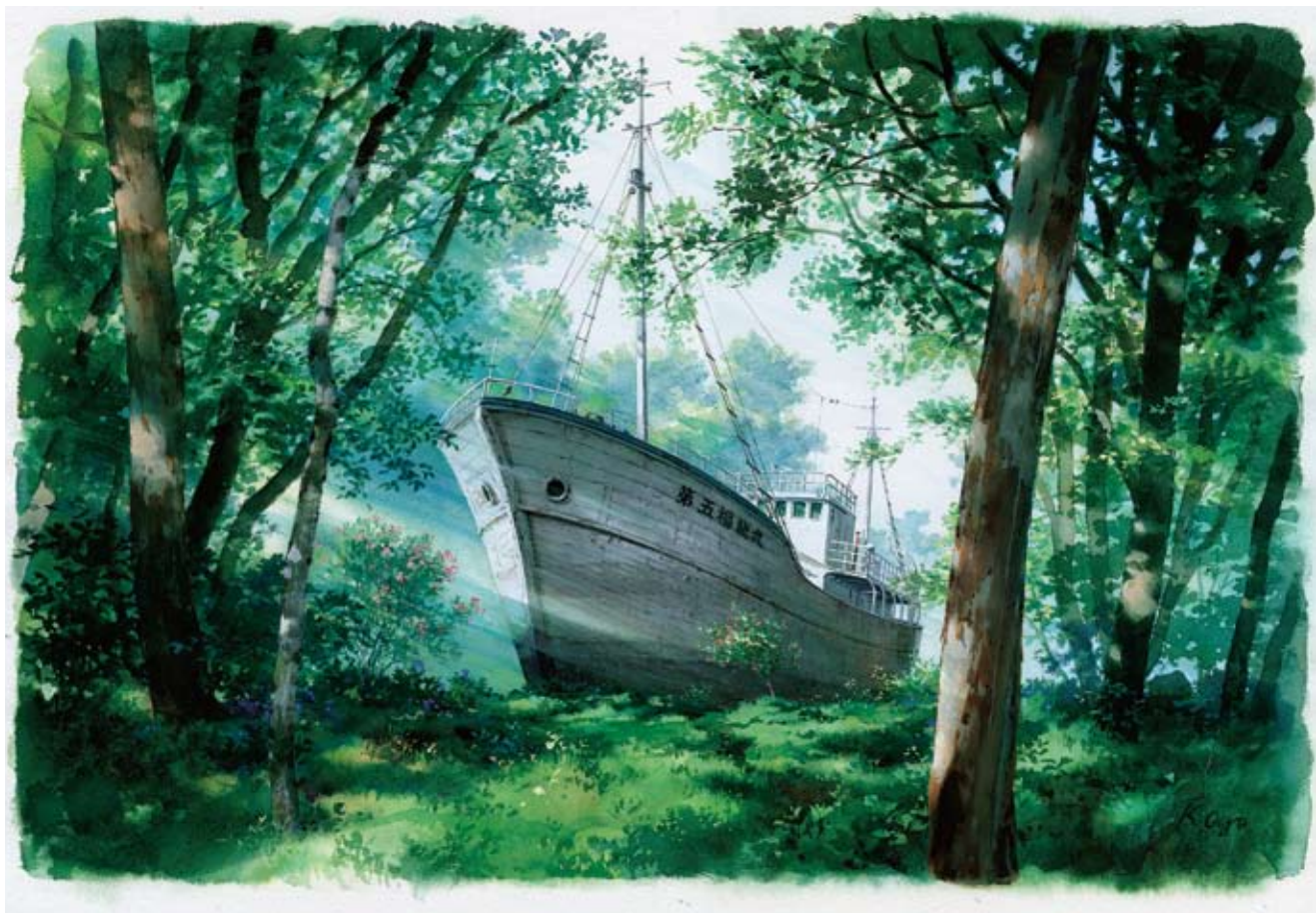
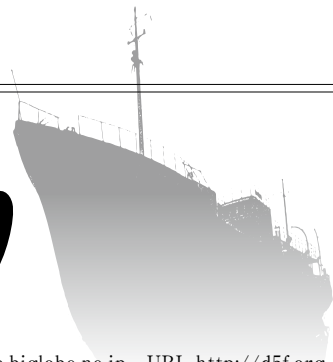
都立 第五福竜丸展示館ニュース

2017.09.01  
No.401

(9・10月号)

発行：公益財団法人 第五福竜丸平和協会 連絡所：東京都江東区夢の島2-1-1 〒136-0081 第五福竜丸展示館内  
Tel.03-3521-8494 Fax.03-3521-2900 E-mail：fukuryumaru@msa.biglobe.ne.jp URL <http://d5f.org>

# 福竜丸だより



男鹿和雄さん

## 第五福竜丸を描く

画家の男鹿和雄さん書き下ろしの第五福竜丸の絵五点が展示館に届けられました。

これら作品は、建造七〇年記念にむけて昨年の春、協会から作品を依頼、これにこたえて男鹿さんが描いたもの。資料の読み込みや二度の焼津取材を重ねて作品が完成しました。

作品のうち二枚の大きな絵は「海の第五福竜丸」と「森の第五福竜丸」(上・写真)です。勇躍赤道海域を目指して進むマグロ漁船、そしていま、船は夢の島の森のなかにあります。スタジオジブリの元美術監督、森と樹の画家と称される男鹿さんが描いた福竜丸、その優しい筆遣いにふれながら、航海はいまもつづくのだと、あらためて強く思います。作品はほかに「焼津港」「ビン玉」「六分儀」で一月の特別展でお披露目されます。

第五福竜丸建造七〇年特別展

『この船を描こう 森の福竜丸』

〜男鹿和雄と子どもたちの絵〜

●会期 11月3日〜2018年3月25日

●会場 第五福竜丸展示館



# 建造七〇年 船大工・匠の技を視る

特別展「この船をつくらう」(一〇月九日)関連のイベントとして七月二三日に船大工による技の実演会を開催しました。

技を披露して下さったのは第五福竜丸を東京水産大学練習船「はやぶさ丸」へと改修した三重県伊勢市の強力造船所(現・株式会社ゴリーキ)で当時「はやぶさ丸」の図面を引いた木村九一さん。この



右から木村さん、吉岡さん、強力さん

日は、鋼鉄部門の工場長だった吉岡雄毅さんや(株)ゴリーキ現会長の強力修さん、特別展の解説イラストを作画した絵本作家の二見正直さんら五名が伊勢市から駆け付けました。

船首下の特設ステージにはめったに触れることのできなくなった船大工の技を見ようと、大学生や高校生のグループなどをはじめ一〇〇人を超える人びとが集いました。その中には和船を扱う船大工さんの姿もあり、木造船として第五福竜丸は貴重な船であるという、船が現存する意味を強く感じる良い機会ともなりました。

## チヨウナで削る

木村さんは強力造船所の青い作業帽をかぶり登場しました。まず披露したのは「チヨウナ」の使い方です。チヨウナ

落とし釘の実演。二枚の板を縫うように接ぐ。



は船大工にとって腕のようなものだといわれ、もつとも重要で基本的な船大工道具の一つです。チヨウナひとつで用材を削り出し、部材を作るのにつかわれます。使い込まれ、見事に手入れされた職人の道具は、それだけで息をのむような迫力がありました。

木村さんは慣れた手つきで「墨つば」で木材に印をつけ、鉋をふるように木材を削る動作を見せてくれました。一見すると荒っぽい作業ですが、チヨウナで削られた表面はツルツルとして綺麗に整っていることに驚かされました。

## 落とし釘

次に実演していただいた「落



カンナがけをする木村さん

とし釘」は本来和船に用いられる技術だそうです。二枚の板を「フナクギ」という平たく反った特殊な釘で接ぐ技法で、福竜丸では船内の隔壁部分に使われています。まず「ツバノミ」と呼ばれる道具で、繋げる二枚の板に釘の通り道になる穴をあけ、板どうしは隙間なく着くように固着面を整えます。上下に繋げた上板の側面からフナクギを入れ、「クギシメ」という鉄の棒を介して金槌で叩きます。館内に響く「キン、キン」という音と独自のリズムが船大工の熟練した技を感じさせてとても印象的でした。

「フナクギ」など造船に使

われる道具類は、いまでは製造する工場がなく入手が困難です。今回使用したフナクギは木村さんが特注し、ゴリーキで作ったものだそうです。

## 船の変遷に触れて

最後にカンナがけの実演をしていただき、続いて吉岡さん、強力さん、木村さんから第五福竜丸の被ばくから二年後、練習船への改修を請け負った当時の様子を、造船所岸壁に幽霊船のように佇む福竜丸や、改修後、勝鬃橋を背景に進む「はやぶさ丸」の姿などの貴重な写真を交えてお話いただきました。

参加者からは「第五福竜丸に携わった関係者の方々から悲惨な船の変遷を聞くことができ感激しました」との感想も寄せられました。

会場には、木村さんが第五福竜丸を実測し製図した「はやぶさ丸」の設計図面が寄贈され展示されました。なお、木村さんの技の実演(今春、伊勢市にて撮影)は映像資料として館内で展示されています。

## 伝えたい 鯨のようなその船のこと

岩崎 くるみ

去る三月に全労済小学生作品コンクール最優秀賞を受賞した岩崎くるみさんの作文を紹介します。くるみさんは当時相川小学校六年生、甲府市在住、いまは中学一年です。

自分の存在をらしめるかのように、堂々と、静かにたずむ大きな船。そのボロボロの船を見上げた時、私は青い海の上にいるかのような気持ちになった。小さなびんに入った真っ白な「死の灰」。真っ赤な夕日のようなまぶしい雲の写真。東京・夢の島公園の第五福竜丸展示館で見た、鯨のようなその船体を私は今も忘れることができない。

私は五年生の時、市民百人が集って作り上げる「山梨憲法ミュージカル」に参加した。参加メンバーは六才から八三才。舞台の題名は「鯨波の声



ラッキードラゴンと呼ばれる船、第五福竜丸」。私は初め、第五福竜丸が何なのか知らなかった。でも、年のちがう仲間と学び、話していくうちにだんだんと関心を持つた。今から六二年前にアメリカが秘密で行っていた水爆実験「ブラボー」により、第五福竜丸は被爆した。乗組員は次々と体を壊し、原爆症となつて亡くなった。でもアメリカはそれを認めず、無かったことにし、日本も同じように事件に目をむけず、原子力という新しいエネルギーに期待し、心をおどらせた。学校の教科書では学ばないけれど、私が暮らしている日本で起こったことだから、知っておかなければいけないことだと気づいた。

ミュージカルで私は、すし屋の子供の役を演じた。「原

爆マグロは売っていません。」そう書いた看板を持ってマグロの安全性を訴えるけれど、放射能をあびているかもしれないマグロをみんなは買ってくれない。だから、すし屋にもみんなが近寄らない。すごく困ったし、さみしい気持ちになった。

福島県から避難してきた子供が「福島さん」「菌」などと言われていじめを受けたことをニュースで知った時、自分が悪いわけではないのに差別されることの苦しさを感じて、心がぎゅつとなった。

「賠償金をもらってらんだろ。」と言われたそうだが、それは第五福竜丸の被害者も同じだった。無線長だった久保山愛吉さんが亡くなった時、妻のすずさんのもとには賠償金へのねたみの手紙が届いたり長女のみやこちゃんも学校でいじめられた。いろいろなものが発達したのに、六二年たった今でも、人間の心にある「差別」がなくならないことが悲しいと思った。

「地球がこわれるってわかっているのに。人がたくさん死ぬってわかってるのに。戦争

は原爆は、核はなぜなくならないのか」との台詞があった。二〇一五年の夏、鹿児島県の川内原発が再稼働した。昨年、熊本地震が起こった時、「川内原発を止めてほしい。」という人々の声に耳を傾けなかつたことに私は腹が立ったし、悲しくなった。原発がなくても電気はつくし、不自由ではないのにどうして稼働するのか。利益は大切かもしれないけれど私たち国民の平和や、幸せをまず守ることが最優先なのではないだろうか。

第五福竜丸の元乗組員である、大石又七さん。現在も福竜丸のことを人々に伝え続けている方だ。大石さんは私たちのミュージカルの本番を見に来てくれた。そして、「すばらしかった。仲間にも見せてやりたかった」といってくれた。私は、一生懸命やってきて本当に良かったと思っ

た。私はその後、大石さんに手紙を書いた。すると数日後、お返事が来た。そこには、大石さんの意志が書かれていた。脳出血で倒れ、人生終わ

りと思ったが山梨の病院に入

院し、回復したこと。神様が死んでいった者たちの悔しさやビキニ事件の真相を後世に伝えろと残りの命を与えてくれたのかもしれないと思ったということ。

そして、「何か国も核兵器を持つようになってしまった今、争いをおこし誰かが核のボタンを押せばそのとき、『地球そのものが終わりになってしまう。早く気が付いてくれ』と、私たちが言い続けましょう」という言葉で手紙は終わっていた。私は大石さんのこの言葉をずっと忘れない。

鯨は見えない遠くの仲間に向かつて話すそうだと。「大きな大きな時代の流れ流され消される私達 けれど止まるな マグロのように我等の命を守るため 黙るな 伝えろ クジラのように見えない仲間はずっとい

る」今、私がやらなくてはいけないこと。それは第五福竜丸のことを忘れないこと。そして、大石さんたちの思いを伝え続けること。みんなで歌ったあの曲が今も、これからずっと、私の心に響き続ける。



# 核兵器なき世界への新たなスタート

高原孝生

さる七月七日、一二二カ国の賛成により、国連で核兵器禁止条約が採択されました。これにより、核兵器の使用はもちろんのこと、使用の威嚇、兵器の生産・配備、それへの関与等、一切が禁じられました。

これは核廃絶に向けた重要なステップです。そもそも核兵器は、およそ「兵器」と呼ぶべきでさえないような、怪物のような破壊力を持った代物で、これまで使用禁止さえないでいたのが異常なことでした。が、ついにこれを全面的に禁止する条約ができたのです。

ここにいたる歩みが一気に加速したのは、この一〇年足らずのことです。強い状況形成力を持つ米国において、社会の主流をなす層から核廃絶が口にされるようになったのは、ブッシュ政権末期のことでした。

オバマ大統領を生んだ

二〇〇八年の大統領選挙で、主要候補が「核のない世界」に言及したのは、まさに画期的でした。9・11後に現実のものと感じられるようになった核テロという脅威を最小化するために核兵器をゼロにすることが最も効果的だ、という認識が核大国にも次第に広がりはじめます。

それに後押しされ、国際赤十字委員会が一歩前に出て、核兵器の使用禁止に向けて諸国に行動を求めます。これを「二〇一〇年のNPT(核不拡散条約)再検討会議の合意文書には、核は「破滅的な人道的結果」をもたらすという一節が入りました。

## 非核国と市民の共同

今回の条約に向けて動いたのは、核兵器を持たない中小国です。それら諸国の外交官たちは、NGOと協力しながら、使命感をもって持続的に取り組んでくれました。これ

には二つの側面があります。まず何より、ヒロシマとナガサキの経験が示すように、たった一発の原爆がもたらす人間的悲惨は、筆舌に尽くしがたいものがあります。私たちがとっては当然と思えるその「非人道性」は、じつは今日にいたるも、国際社会に十分に知られているとは言えません。それがようやく外交の世界で多数の諸国に共有されるまでになったということ

が、第一点です。第二に、「今、そこにある」核兵器の脅威に対する危機意識も、重要な要素です。冷戦期のピーク時に七万発と言われた核弾頭数は、いま約一万五千発に減っています。が、それでも人類を何度も滅ぼせるほどの破壊力が蓄積されている「過剰殺戮」状態であることは変わらず、警告即発射態勢も解除されていません。

## 地球大の危機をとりのぞく

誰も望まなかった偶発核戦争や核事故の危険が、これまで驚くほど多かつたという事実も近年になって明らかにな

っていた。ナプタリ・オエミさん(六四歳)。意識がなくもう何も聞けなかった。写真を撮らせて貰って引き揚げる。

## 夫と父を失った三人の女性

この三日後の三十一日午前九時、ナプタリさんは亡くなった。その夜遺体は教会に安置され通夜が行われた。家族関係が分からなかったため、妻のセーラーさんにカメラの焦点を当てた。後にネガを調べると、父のそばで悲嘆にく

れる娘のリミ、ヨ、ロッコ姉妹の姿が記録されていた。翌一日、遺体は海岸寄りの墓地に埋葬された。ロンゲラップ島八六人の被ばく者中二〇人目の死者だった。被ばく直後から様々な後遺症に苦しんできたナプタリさん。薬もなぐ、家族の看病だけでこれまで生き

ってきました。しかも、そのパーセントが使われただけで、世界で一〇億人が死ぬことになるような気候大変動をもたらすというシミュレーションがあるっており、全人類を危険にさらしているのが、いまの核兵器の現状なのです。少数の核兵器を持った国、より正確には、核兵器を使う権限を持ったごく少数の人間たちに、地球を滅ぼす資格はありません。その、ごくあたりまえの考えを表現したのが、今回の条約だと言えるでしょう。

## ヒバクシャとともに

核と人類は共存できない、ノーマ・ヒロシマ、という被爆地からの長年の発信が、ようやく実を結んだということとを評価すべきでもありません。ヒバクシャという言葉が条約前文で二回も登場することに、それは表れています。一部には、現在世界の大多数の国が加盟しているNPTを弱める、と言いつてる向きがありますが、これは誤りで、条文でも明言されているように、むしろNPTを補完

するものだと位置づけるべきです。核実験の被害者の苦しみに、条約はその前文で触れています。「アメリカの核の傘に守られた日本」という認識が、国民の間に広まっているとすれば、その誤解を正していかなくてはなりません。「核の傘」はじつは核使用の脅しに他ならず、相手国からすれば、のど元に突きつけられた「核の槍」なのです。

日本政府の態度に見られる核の脅威への切迫感のなさ、際立っています。本気で「かけはし」の役目を果たそうとするのであるなら、せめて条約の主旨への賛同を表明し、「オブザーバー」として今後の会議に参加し、今後開かれる締約国会合を広島・長崎に招致すると表明すべきでしょう。世界のヒバクシャへの支援を表明し、いまや国際法の規範となった「長崎を最後の被爆地」という旗を高く掲げることが、日本には求められています。(たかはら たかお/明治学院大学国際平和研究所長・協会理事)

巻き上げられ、有人島のある東方に向かった。午前〇時頃、ロンゲラップ島にも空からサンゴの白い粉(死の灰)が降ってきた。地面に、屋根に、水槽に、ヤシの葉に三センチも積もった。当時一三歳のリミヨさんは炊事小屋で妹のロッコさんとご飯を炊いていた。「灰のよう

なものが落ちてきた時、子どもが近くで遊んでいた。灰がついても洗わなかったため、痒くてたまらなかった。私たちはその晩朝まで寝られませんでした。私の髪は全部抜けました。いまでも吐き気や胸の痛みが続いています」と不安を抑えたりリミヨさんの静かな話しぶりが強く印象に残った。巡航船でようやくたどり着いた私たちを待ち、何かを伝えようとしたりかのようなナプタリさんの死。ナプタリさんは何も言い残せなかったが、無残な死をとげた父の最後と言葉を、リミヨさんは父に代わり語り続けることになった。

(はまだ マコウせい/フォトジャーナリスト)



マーシャルの人びととの40年 島田 興生

## ⑤ 女教師リミヨ・エボンさん、父の被ばくを後世に伝える

### ある被ばく老人の死

イバイ港に留まっていた巡航船にマジユロから次の進路が伝えられ、ようやくビキニに向け出港したのは七月二十五日午後四時だった。

まる一日の航海の後、二六日午後四時、船はビキニ本島に無事到着。しかし滞在は一晚のみ。補給物資を荷揚げして、翌朝には出港するという。何を撮るか、日本からずっと頭の中で思い描いたビキニだが、迫り来る夕闇に背中を押されるように島内をただ



母セーラーさん(中央)、リミヨさん(右)、次女ロッコさん(左)。その後、母と姉妹には甲状腺障害や流産などの数々の後遺症を発症することになった。



ワシントンからの通信④

核時代における歴史学とは  
樋口 敏広

七月七日、核兵器禁止条約が一二カ国の賛成で採択された。この歴史的な出来事は

日本のメディアでは大きく取り上げられたようだが、残念ながらアメリカではほとんど知られていない。事実、主要メディアの大部分は条約採択の事実を評論抜きで短く伝えただけであった。その無関心ぶりは、著名な核問題研究者がある雑誌の評論の中でそれこそがニュースだ、と述べるほどであった。

アメリカ国内の核禁条約に対する無関心さの最大の理由は、もちろん北朝鮮危機であ

る。条約採択直前の七月四日、北朝鮮が米本土まで届く長距離ミサイルの発射に成功したと発表すると、トランプ大統領はミサイル開発を阻止するために軍事的手段に訴えることも辞さないことを明言した。幸いなことに、最新の世論調査によるとアメリカ国民の大部分は外交による平和的解決を求めており、主要メディアも核戦争が双方に甚大な被害をもたらすことを繰り返して警告している。

しかし問題なのは、その批判の矛先が核兵器そのものの危険性ではなく、トランプ個人の資質のみに向けられていることである。昨年大統領選挙戦で対立候補であったヒラリー・クリントンはトランプに「核のボタン」を渡すな、と述べたが、これは裏返すと指導者が理性的で冷静でさえあれば核兵器によって平和が保たれることを意味する。つまり、皮肉にもトランプのみならず彼を批判する側も核抑

止という神話を強化する役割を果たしているのである。被害者をはじめとする核の核兵器禁止条約は、その苦痛を通じて国家間の平和を目指すという核抑止論と根本に相容れない。条約が成立した今、どのように核抑止論を克服するかが今後の課題と言えよう。

(ひぐち としひろ ジョージタウン大学)

BOOK REVIEW

奥秋 聡著

『海の放射能に立ち向かった日本人―ビキニから福島への伝言』

評 中尾麻伊香



旬報社 一四〇〇円

ビキニ事件のときに世界に先駆けて海洋の放射能汚染の調査をおこなった日本が、なぜ自国の原発事故に際して、そのときの経験や教訓を役立てることができなかったのか……NHKのE.T.V特集「海の放射能に立ち向かった日本人―ビキニ事件と俊鶴丸―」(二〇一三年九月二十八日放映・メディア・アンビシヤス賞受賞)は、歴史を振り返ること現代社会への鋭い問いかけを行い、視聴者の反響を呼んだ。このたび旬報社から刊行された『放射能に立ち向かった日本人―ビキニからフクシマへの伝言』は、同番組のディレクターがその取材内容をまとめ、改めて世に問うた

一冊である。著者はビキニ事件当時を知る科学者たちや焼津の人々への綿密な取材を通してその歴史を紡ぎ直していく。第一章「ビキニとフクシマ」ではビキニ事件の幕開けを関係者の証言をもとに再構成する。第二章「動き出した科学者たち」第三章「俊鶴丸 出航す」では科学者の「死の灰」の調査と俊鶴丸による海洋汚染調査の様子を詳述する。第四章「放射能検査の中止とアメリカの思惑」では放射能汚染に関する日米の科学者の見解と政治決着の様子、第五章「立ち上

がる市民と原発推進政策」では市民の反核実験に向けた思いとそれは裏腹に進む原発推進政策、その中で変容していく環境放射能研究の様子を綴る。第六章「ビキニの教訓は生かされたか」では東電福島原発事故において政府主導の調査が進まない中、海洋学や気象学の専門家がどのように対応したかを検証し、放射能測定の新しい動きについても紹介する。本書は科学者の活動に焦点をおきながらも、日米関係、漁業、焼津の人々の生活といった多様な側面からビキニ事

件をめぐる全体像を描き出し、さらに科学調査が現代にどのように受け継がれたかまでを追った意欲的なものである。科学調査をめぐるミクロな視点とその時代背景や意義というマクロな視点を有するもので、私にとっては焼津における第五福竜丸乗組員の孤立の背景や、放射能測定がビキニ事件以降どのように引き継がれ変容したかなど、学ぶ事が多かった。多くの方に一読をお薦めしたい。(なかお まいか 立命館大学衣笠総合研究機構研究員)

建造の地・串本で

第五福竜丸Ⅱ第七事代丸展

八月一日～六日、和歌山県串本町古座分庁舎で「語り継ごう第五福竜丸Ⅱ第七事代丸建造七〇年展」が開催されました。最終日には第五福竜丸展示館・市田真理学芸員が記念講演し、郷土史研究家の仲江孝丸さんと対談しました。

八月一日～六日、和歌山県串本町古座分庁舎で「語り継ごう第五福竜丸Ⅱ第七事代丸建造七〇年展」が開催されました。最終日には第五福竜丸展示館・市田真理学芸員が記念講演し、郷土史研究家の仲江孝丸さんと対談しました。

戦時標準船

展示会場には写真や資料のほか、第七事代丸(第五福竜丸の前身)が建造された当時の古座川・中洲のようすがジオラマで再現されました。この中洲にあったのが古座造船所です。

太平洋戦争がはじまり、政府は南方や沿岸の物資輸送船舶を増産するため、小規模造船所の合併を進めました。古座川河口付近で造船を営む植村造船所と石垣造船所などが合併統合され、古座造船所が設立されました。



仲江孝丸さんの力作・中洲のジオラマを観る子どもたち



植村佐三次さんは古座造船所で働いた後、運搬船などに乗船した。

一通の手紙から

市田 真理

戦時中は量産性向上とともに、資材節約が優先され、工程や構造、艤装等が大幅に簡素化された戦時標準船とよばれる運搬船が建造されました。木材の乾燥・養生なども簡略されるなか、進水はするものの歪みや水漏れが生じて竣工に至らなかった船も多かったといえます。植村佐三次さんによると、古座造船所は精密な技術を誇り、「日本」と表彰されたそうです。

戦時中は量産性向上とともに、資材節約が優先され、工程や構造、艤装等が大幅に簡素化された戦時標準船とよばれる運搬船が建造されました。木材の乾燥・養生なども簡略されるなか、進水はするものの歪みや水漏れが生じて竣工に至らなかった船も多かったといえます。植村佐三次さんによると、古座造船所は精密な技術を誇り、「日本」と表彰されたそうです。

被災船と知らず

サンフランシスコ講和条約締結後、大型船建造が解禁となり、木造船の需要は減少しました。第五福竜丸の被災は一九五四年三月一日。その直後の三月二五日に古座造船所は解散登記を行っています。南藤藤夫さんが代表者となり南藤造船所を立ち上げると、古座造船所で働いていた船大工の大半が入社しまし

た。南藤房男さんもここで働きました。第七事代丸が第五福竜丸だとは知らず、新藤兼人監督が映画『第五福竜丸』をつくるときにスタッフから取材されたことで知り、本当に驚いたそうです。一九八三年には植村明治さん、奈良治さん、南藤藤夫さんら船大工が、夢の島の展示館を訪れ船との再会を果たしました。

第五福竜丸の被災からは遠く感じる北海道からも、久保山愛吉さんへ手紙が送られています。オホーツク海に面した別海町から差出人は「一開拓者より」とだけ書かれたハガキと手紙。同一人物のようです。

手紙は「シジミ」に同封されていたものらしく封筒は見当たりません。「久保山サンは重病人で味噌汁はにがいかもしれないからジュースかシロップにまぜてからおあげください」と調理や保存の方法なども記されています。

追伸に「私達の取った小豆送ります。久保山サン全快致しましたらお祝いの赤飯でも作るのに御使用下されたら幸いです」とあります。遠き空の一角より御主人の全快を祈ります。カボチャもトオキビも初めて経験するほどの不作だと嘆くような中で収穫された一握りの小豆。一通の手紙です。

ハガキには「新聞紙上又はスピーカにより知りました」とあり、ラジオのニュースで久保山さんの病状のひとつに黄疸が出ていることを知った

「私の居る所、役場も局も無い電気も付かず淋しい村で

## 米国研究者を囲み研究会



8月12日、アメリカの核開発史を研究するアレックス・ウェラステインさん(ニュージャージー州ステイブン工科大学助教、35)を囲み、

平和協会主催の研究会を行いました。ウェラステインさんは広島で開かれた国際会議に出席するため来日。研究会には、戦後の核開発やビキニ事件に関心の深い研究者やジャーナリスト13名が参加しました。ウェラステインさんは「広島・長崎への原爆投下についてトルーマンは何を知っていたか、あるいは知らなかったか」というテーマで報告。8月6日前後の発言録から、トルーマン大統領は原爆やその投下について十分に理解していなかったのではないかと話しました。

## 来館者の声から

今年も夏休みの始めから真剣な眼差しで見学する親子の姿が目立ちました。雨の日が続きましたが、吹奏楽曲「ラッキー・ドラゴン—第五福竜丸の記憶」を演奏するという中高生の見学も多く、館内は賑わいました。来館者の感想を紹介します。

◇国連で核兵器禁止条約が採択されたことを久保山愛吉さんの碑に報告しました。世界が平和でありますように。世界が良き方向へ進みますように。(東京 40代)

◇ラッキー・ドラゴンを演奏します。平和への思いをしっかりとのせて演奏したいと思いました。(埼玉 14歳)

◇中学生の時に来ました。大学生になって再訪し、自分の中の平和への思いが変わらないことを再認識しました。(京都 18歳)

◇第五福竜丸の乗組員だけでなく、マ

ーシャルで暮らす人やマグロまで犠牲になっていることを知り、なぜ今も核保有国が核を手放せないのかと疑問に思った。(栃木 22歳)

◇本物の船があったのでとてもびっくりしています。わたしのお母さんが、てんじぶつを見て泣いていました。わたしはラッキー・ドラゴンの曲をひきます。ひがいの気持ちをかみしめてえんそうしたいです。(千葉 10歳)

◇23人の乗組員があまりに若かったのに驚きました。広島や長崎の資料館だけでなく、東京にも原爆を忘れないための「記憶の場」があることは、大切なことだと思います。(東京 62歳)

◇講話のなかで「忘れることはひとつ暴力」といわれてはっとしました。知ることと忘れないことは私にもできる。(三重 中学3年生)

◇水爆は誰一人幸せにしない。そんな恐ろしいこと、恐ろしい国をつくってはいけない。だから語るのだ、だから伝えるのだ。平和とはなにげない日常だと学びました。(三重 中学3年生)

◇米ソの冷戦が発端で起こった水爆実験によって、この館で展示されている

ような被害があったことがとても痛ましく、悲しく思えた。被害の深さやこの事件が与えた社会への影響を見て、なぜこのような事態に至ったのか、またいまの国々はこのような事件が二度と起こらないように何をしているのか、はたまた特に何もしていないのか、現在につながる部分が知りたくなかった。(東京 15歳)

## トニー・デブルム氏逝去

マーシャル諸島共和国元外務大臣のトニー・デブルム氏が8月22日に亡くなりました。72歳でした。2014年にマーシャル諸島が核兵器保有国に核軍縮義務の履行を求め国際司法裁判所に提訴した訴訟を主導し、海面上昇問題などで困窮するマーシャル諸島において気候変動問題にも力をいれ取り組まれていました。日本のジャーナリストや市民団体とも深いつながりを持ち、日本からマーシャル諸島への被ばく調査のサポートをされるなど重要な役割を担いました。ご冥福をお祈りいたします。

## 久保山忌の諸行事 9月23日(土)

第五福竜丸無線長久保山愛吉さんのご命日9月23日には、様々なグループが展示館に集い催しを行います。ぜひご参加ください。

### □平和を語る第五福竜丸のつどい

- 午前10時30分より午後3時 展示館内
- 朗読、紙芝居、演芸、演奏語りなど。第五福竜丸ボランティアの会も出演します。

### □東京原水協

- 第31回第五福竜丸のつどい午前12時半より展示館見学、午後1時より献花式
- 午後1時50分～4時 夢の島マリーナで学習会

### □築地にマグロ塚をつくる会

- 午後1時30分より、夢の島マリーナ2階会議室
- 映画上映「永遠なる平和を一原水爆の惨禍—」
- 講談「魚屋からマグロが消えた日～マグロ塚の由来～」高橋織丸(社会人講談師)
- 対談「ビキニ被爆から63年—築地にマグロ塚を」大石又七・小沢節子

### □久保山忌句会

- 午前10時、展示館まえ久保山記念碑に献花、吟行。東京スポーツ文化館研修室に会場を移し句会。• 参加費1000円(茶菓子付)

\*当日参加できない方は第五福竜丸にちなむ俳句一句を送ってください。どなたでも大歓迎です。30年余の歴史をもつ久保山忌句会で、一緒に俳句を作ってみませんか。後日、雑誌『俳句人』に掲載します。

- 連絡先・送り先 132-0013 江戸川区江戸川 2-2-6 田中千恵子宛  
電話 03-3678-0284